

災害ボランティア活動報告 (No. 3)

年月日 : 平成23年8月20日(土)~21日(日)

活動場所 : 気仙沼市(2日目大島)

活動内容 : ①からまった網をほどく、②津波で浸水した納屋内の家財の分別、小運搬

活動拠点 : 気仙沼市災害ボランティアセンター

参加者 : 会員 No.2 芦澤潤一、No.6. 長内正宏、No.9 都築一憲、No.10 時岡真治、No.16 黒田洋介

活動報告

8月20日(土)

前日午後8時に、葛飾から気仙沼市に向け出発。午前3時頃に到着し、ボラセンが開くまで仮眠。午前8時30分ボラセンオープン。

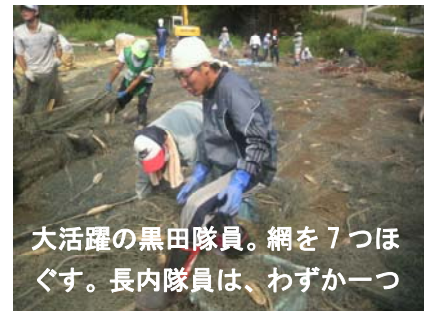
ボラセンで、初回参加受付。氏名、年齢、住所、保険の有無を記載。

バスで乗り込んだ団体等多数。ニーズは必要数あるが、一般参加向けのニーズの数はそれほど、多くない。

マッチングでは、手上げ方式で都築隊員が果敢に手をあげるが、コーディネートとの距離にはばまれ、敢え無く敗退。何人でも受け入れ可能のからまった魚網をきれいにほどく作業に50名弱で参加。近隣の社協、ボラセンで準備したマイクロバスに分乗し作業場所へ。移動途中の光景は、5月に見た光景と変わらず、悲惨な状況のまま。家屋内の片付け等は進んでいるようだが、無残な家屋が取り壊されずに残っている。

10時頃から3時まで作業。複雑に絡んだ魚網を人力でほぐすことは極めて難しい。へとへとになり作業終了。天気も良く汗だく。

船に乗り込み、気仙沼沖の大島椿荘に向かい、宿泊。素泊まり2千円。



大活躍の黒田隊員。網を7つほぐす。長内隊員は、わずか一つ



男性隊員があきらめた後も、もくもくとほぐす女性陣

8月21日(日)

芦澤隊員の個人的なつてを頼りに大島で活動。津波で浸水した納屋の中の網や家財道具などを全て外に運び出し、捨てる物、残す物に分別する作業。まずは、仮置きするためのビニールハウス設営に着手。

作業先のお父さんから、ロープの結び方を教わるが、一度では覚えられない。釣りが趣味の都築隊員は、一度で成功。作業は、気仙沼ボラセンの2名の方が作業の指示を出してくれて、スムーズに進む。大きな臼や木製の風呂おけなど懐かしいものもあるが、ふすまの裏に貼られていた新聞はサンフランシスコ講和条約の調印や日本政府の構成案など歴史的な価値のあるもの。大事に運ぶ。

9時半から2時半まで、時々雨に打たれながら作業。優しいお父さんから、アイスクャンディー2本をいただく。フェリーで戻り、気仙沼プラザホテルで温泉(4時まで入館、500円)に入り、一息つく。

引き続き活動する芦澤隊員を遠野まで送るが、ドラゴンラーメンで木下会長、浅野さん、大久保さんと合流。NPO 会員7名。前回理事会と同じ人数じゃないか。激辛ラーメン完食。ボランティアは大盛り無料。午前2時葛飾着。※トップヒル、すずマート、気仙沼パンなどなど再会。懐かしい。



芦澤隊員の働きを監督する都築隊員



一人で運べるでしょ、黒田隊員、長内隊員